

【市教委研修】学校危機シミュレーション訓練（事故版）

1. 対象者： 各校生徒指導主任・主事

2. 所要時間： 2時間

3. 演習の流れ

●ファシリテーターの動き ○参加者の動き

配分	演習内容	資 料	備 考
	資料の配付 ワークシート①	ワークシート①	
1分	○「事例の情報カード」を読んでもらう		
5分	●学校は何をしていかなければなりませんか？付箋に対応を1件ずつ書き出し、さらに「当日」「翌日」「3日目以降」に分けて下さい。 ○個人で書き出す		
5分	○グループになり、個人で考えたことを出し合う	ワークシート② (当日の対応)	
1分	●<追加情報1を伝える>	追加情報1	
5分	○新たな情報をもとに、グループで、対応を協議する		
5分	○グループでの協議内容を発表する		
1分	<追加情報2を伝える>	追加情報2	
10分	○グループで新たに付箋を書き足したりしながら、ワークシートを完成させる		
5分	意見交換		
休憩			
5分	●もし、あなたがこの学校の生徒指導主任だったら、生徒指導主任として何をしなければいけないでしょうか？また、どのようなことに配慮して対応すべきでしょうか？	ワークシート①	
10分	○グループになり、個人で考えたことを出し合う		
10分	○グループでの協議内容を発表する		
10分	●「緊急対応の手引き（文部科学省）」を配付する ●コメント ※「生徒指導提要」P78～81参照		

休憩（可能であれば）			
10分	● どうしたらこうした学校危機を予防できるか？具体的な方法をあげてください。	ワークシート①	
5分	○ グループでの協議内容を発表する		
10分	● 指導・助言		
10分	● ストレスマネジメントの実習 ● 「支援者のための災害後のこころのケアハンドブック」の資料を配布する		

指導助言のポイント

- ・ 各自治体が策定したいじめ防止基本方針（特に重大事態への対応）を熟読し、その方針に沿った指導助言を行う。
- ・ 文部科学省「緊急対応の手引き」等も熟読しておく。
- ・ 生徒指導提要进行を熟読し、生徒指導主任・主事の役割について確認しておく。

「事例の情報」カード

【第1報】

月曜日、5年生の5時間目のプールの授業で、最後の10分間は自由遊びの時間をとっていた。「先生！A男が浮いてこない！」と子どもたちの叫び声があがった。そこに1名の男子がプールの底に沈んでいた。すぐにプールから引き上げ、教師の一人が職員室に連絡した。養護教諭が保健室にあるAEDを持ってかけつけ、救急蘇生を開始すると同時に、救急車を要請した。職員室にいた教頭が、A男の保護者にも連絡した。

14:30に救急車が到着し、養護教諭が同伴した。搬送後、すぐに教頭が搬送先の病院に向かった。子どもたちが動揺していたことから、学校長の判断で、委員会活動を中止し、全校生徒を15:45に下校させ、5年生に関しては保護者に一斉メールをだして、迎えに来られる保護者には児童を引き渡すようにした。保護者が迎えに来られない児童は、教師が引率して集団下校させた。

【第2報】

児童が下校した後に

- ・病院にいる教頭から校長に電話連絡があり、意識不明の状態ですぐにICUにて治療を受けているとのことであった。
- ・下校までの間に、子どもたちが担任に口々に話していた内容から、A男が数人の男子とじゃんけんでは負けたら、水の中に潜って、その上にみんなが乗るといったゲームをしていた。A男は何度も水の中に潜らされていたということであった。
- ・5年1組の児童が全員心配していた。A男とプールの中で一緒に遊んでいた男子児童のうち4名が泣いたり、気持ち悪さを訴えたため保健室で休ませた。この児童については保護者に迎えに来てもらい、直接担任から保護者に状況を伝えた。
- ・下校させた後、担任はA男の搬送先の病院に向かった。

【その他の情報】

- ・事故が起きた時間 5時間目の授業 13:30～14:15 事故が起きたのは、14:10頃 救急車到着は14:30
- ・学校規模 1学年3クラス（中規模校）全校生徒550名 5年生84名
- ・A男の所属クラス 5年1組：28名（男子15名 女子13名）
- ・被害児童の情報
5年1組 A男
男子児童。小柄。大人しいが、誰とでも分け隔てなく接することができる。兄弟はいない。健康状態は良好
母子家庭。母親は、教育活動に協力的。
- ・事故当時の状況
教師は3人プールサイドにいた。1組担任女性教諭B（44歳、教職20年 学年主任）は具合の悪い児童の面倒を見ていた。2組男性教諭C（33歳教職10年、心肺蘇生を行った）は、児童が使ったビート板を片付けていた。プールを監視していたのは、3組男性教諭D（A男を引き上げた後、内線がなかったため職員室に行った）であった。男性教諭Dは採用2年目。
- ・施設の状況
- ・AEDは保健室に常備
- ・プール＝職員室間は100m
- ・プールの大きさ＝25m×6コース
- ・A男が沈んでいた地点のプールの深さは1mであった。

【臨時職員会議での学校長からの伝達事項】

ファシリテーター：が口頭で説明

追加情報 1

- ・当日 23:00 に、病院にいた教頭から、A男が治療の甲斐なく亡くなったという連絡が入った。

追加情報 2

次の日の 8:00 に、病院の検視の結果、死亡原因は溺死。背中や首、肩などに押さえつけられたような跡が確認された。そのため、警察から、プールで上から数人で押さえつけられ、呼吸できなかったことによる溺死と疑い、捜査を始めることになった、と学校に連絡があった。

(配布物)

事例の情報カード

Name

【第1報】

月曜日、5年生の5時間目のプールの授業で、最後の10分間は自由遊びの時間をとっていた。「先生！A男が浮いてこない！」と子どもたちの叫び声があがった。そこに1名の男子がプールの底に沈んでいた。すぐにプールから引き上げ、教師の一人が職員室に連絡した。養護教諭が保健室にあるAEDを持ってかけつけ、救急蘇生を開始すると同時に、救急車を要請した。職員室にいた教頭が、A男の保護者にも連絡した。

14:30に救急車が到着し、養護教諭が同伴した。搬送後、すぐに教頭が搬送先の病院に向かった。子どもたちが動揺していたことから、学校長の判断で、委員会活動を中止し、全校生徒を15:40に下校させ、5年生に関しては保護者に一斉メールをだして、迎えに来られる保護者には児童を引き渡すようにした。保護者が迎えに来られない児童は、教師が引率して集団下校させた。

【第2報】

児童が下校した後に

- ・病院にいる教頭から校長に電話連絡があり、意識不明の状態ですべての治療を受けているとのことであった。
- ・下校までの間に、子どもたちが担任に口々に話していた内容から、A男くんが数人の男子とじゃんけんして負けたら、水の中に潜って、その上にみんなが乗るといったゲームをしていた。A男くんは何度も水の中に潜らされていたということであった。
- ・5年1組の児童が全員心配していた。A男とプールの中で一緒に遊んでいた男子児童のうち4名が泣いたり、気持ち悪さを訴えたため保健室で休ませた。この児童については保護者に迎えにきてもらい、直接担任から保護者に状況を伝えた。
- ・下校させた後、担任はA男の搬送先の病院に向かった。

【その他の情報】

- ・事故が起きた時間 5時間目の授業 13:30～14:15 事故が起きたのは、14:10頃 救急車到着は14:30
- ・学校規模 1学年3クラス(中規模校) 全校生徒 550名 5年生 84名
- ・A男の所属クラス 5年1組:28名(男子15名 女子13名)
- ・被害児童の情報
5年1組 A男
男子児童。小柄。大人しいが、誰とでも分け隔てなく接することができる。兄弟はいない。健康状態は良好
母子家庭。母親は、教育活動に協力的。
- ・事故当時の状況
教師は3人プールサイドにいた。1組担任女性教諭B(44歳、教職20年 学年主任)は具合の悪い児童の面倒を見ていた。2組男性教諭C(33歳教職10年、心肺蘇生を行った)は、児童が使ったビート板を片付けていた。プールを監視していたのは、3組男性教諭D(A男を引き上げた後、内線がなかったため職員室に行った)であった。男性教諭Dは採用2年目。
- ・施設の状況
- ・AEDは保健室に常備
- ・プール＝職員室間は100m
- ・プールの大きさ＝25m×6コース
- ・A男が沈んでいた地点のプールの深さは1mであった。